

鳥取の民話

2

収録・解説 酒井董美

語り手 名越雪野さん
(明治40年生まれ)

昭和55年9月17日収録

あらすじ

和田の定光寺へ和尚さんが着任すると、鳥取の天徳寺の和尚さんから問答に行くと思いが来る。

金の方で住職に収まった定光寺さんは困って、寺で饅頭を売っていたチヨチ兵衛に話す。チヨチ兵衛が代わりに、和尚の装束を着けて待っていると、大岳院の中宿を経由して来た天徳寺さんが、払子を振る。チヨチ兵衛もつする。天徳寺さんが一礼するとチヨチ兵衛もする。

天徳寺さんが「地球は」と手で円を作る。チヨチ

禅問答

(倉吉市湊町)

地方色のおもしろさも



イラスト・福本隆男

と解す。次に「日本は」と指を2本出す。チヨチ兵衛は「2銭に負けろ」と解して、いやだとアカペーをする。天徳寺さんは「眼の下にあり」と解

解説

お互いに自分の立場で天徳寺さんは「三千世界」と解しうんと頷く。天相手の問いや答えを判断

し、都合のよいように解と解する。3、(A)僧、指を4つ笑い話である。一方は本出して四恩はと問う。知識人の和尚。対するは餅屋は4文にまけると解庶民階級の饅頭屋というする。(B)餅屋はいや取り合わせの奇妙さがまだとあかんべする。僧はた、いっそうユーモアを目の下にありと解する。醸し出している。(おし問答ともいう)。

閑敬吾博士の『日本昔話大成』から、その戸籍人公であるが、倉吉市を紹介しておく。これは話では餅屋の代わりに饅頭屋「笑話」の「三 巧智譚 頭屋、旅僧の代わりに鳥取の天徳寺の和尚となつており、後はほとんど同じである。ただ、倉吉市餅屋(豆腐屋)が和尚の方では問答のための天徳寺さんの道中の中宿に、

1、(A)旅僧が小倉吉の大岳院という寺がさな輪をつくり「太陽は」用意される点など、こちらと問う。餅屋は小さいとらの方が工夫された筋書解する。(B)餅屋は、きになっているし、さらに大きい輪をつくる。僧はに天徳寺さんの行列が上世界を照らすと解する。井から続くなどと、かな2、(A)僧、指を3り誇張された内容で語ら本出して、三千世界はと問う。餅屋は3文で売れ地方色のおもしろさが垣と解する。(B)餅屋間見られるよつである。は指を5本出して5文だ(元鳥取短期大学教授)という。僧は五戒で保つ(水曜日に掲載)